

# 高等学校体育理論における 「メディアを通じたスポーツとのかかわり方」に関する教材開発

白井 蒼 (筑波大学)

## 1. 目的

本研究は、高等学校体育理論の「文化としてのスポーツ」の「スポーツとメディア」に着目し、「メディアを通して伝えられるスポーツとのかかわり方」に関する体育理論の教材を開発すること、それを授業で実践し、その成果を明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

1) 教材の開発：メディアの発達によってスポーツが受ける影響だけでなく、メディアを介すること自体によって受ける影響を学ばせることを意図して2時間で単元を構成した。1時間目は、スポーツとメディアの関係やメディアが及ぼすスポーツへの影響について、また、メディアを介するスポーツは、制作側の意図によって構成されていることを理解することをねらいとして、講義と映像分析を行い、2時間目は、メディアを通して伝えられるスポーツに対するかかわり方を考えさせることをねらいとして、新聞記事の分析と話し合い活動を行うこととした。

2) 対象：東京都 T 大学附属高等学校 1 年生男女 82 名 (1 クラス 41 人×2 クラス)

3) 分析方法：「スポーツとメディア」をテーマとした体育理論の授業を 50 分×2 コマ実施し、その成果を検討するため、①メディアを通じたスポーツ情報への接触に関する実態調査、②スポーツ・メディアリテラシーに対する関わりや考え方の変容 (大橋 2014)、③ワークシートの分析、④生徒が成果と感じていることについてデータを収集し、分析を行った。

## 3. 結果と考察

1) メディアを通じたスポーツ情報への接触に関する実態調査について、スポーツを「すること及び「みる」ことに対し肯定的な態度をもつ生徒が非常に多く、また、メディアを通じたスポーツ情報への接触に関する実態として、概ねの生徒が、テレビからスポーツ情報に接触していた。

2) スポーツ・メディアリテラシーに対する関わりや考え方の変容について、「メディア・スポーツは、現実そのものを伝えている」で得点が有意に低下 ( $p<.001$ ) し、「メディア・スポーツは、特定の目的に沿って選択され、発信されている」で有意に向上 ( $p<.001$ )、「メディア・スポーツが映し出している

のは、現実である」では有意に低下 ( $p<.01$ ) した。このことから、授業を通して、メディアを介して伝えられるスポーツが、現実そのままではなく、特定の意図をもって構成されているものだと考える生徒が増加したと考えられる。また、「メディア・スポーツの送り手が最優先するのは、利潤の追求である」と「メディア・スポーツの内容は、スポンサーの意向によって左右されることがある」で有意に得点が向上 ( $p<.01$ ) し、さらに「メディア・スポーツ産業は、特定の社会的勢力に所有されている」においても、有意に向上した ( $p<.05$ )。このことから、メディア・スポーツには商業的な側面が関連していると考える生徒が増加したと考えられる。

3) ワークシートの分析から、本研究で行った映像分析演習および新聞記事分析演習は、メディアが構成する「現実」を分析し、意図を読み解くための教材としては十分機能を果たしたことが示唆された。

4) 生徒が成果と感じていることについて、メディアを通して伝えられるスポーツには、「メディア・制作側の操作」が関係していることを多くの生徒が学習できたことが成果として挙げられた。また、「メディアによるスポーツの文化的変容」、「メディアの良い影響」、「メディアを介することの影響」についての記述が多くみられたことから、「スポーツとメディア」の関係やメディアが及ぼしてきた影響を学習できた生徒が比較的多いことが示唆された。そして、「メディアを通して伝えられるスポーツとのかかわり方」の記述が多くみられたことから、単元の目的をある程度達成できたといえる。

## 4. 結論

本研究では、「メディアを通して伝えられるスポーツとのかかわり方」を考えさせる体育理論授業の教材を開発した。そして、その授業を実施した結果、メディアが実際にどのように『現実』を構成し、スポーツを伝えているのかを学習し、「メディアを通して伝えられるスポーツとのかかわり方」について考えさせることができた。

## 5. 主な参考文献

1) 大橋充典 (2014) スポーツにおけるメディア・リテラシー教育の実践報告. 健康科学 36 : 42-46.